

3年間を振り返って

看護学科第40期生 青木 玲

1年生の頃は、准看護師として働くようになり、看護業務に対する多くの知識を習得しなくてはいけない状況であった為、学業と仕事との両立がとても難しく思い、この先、進学や卒業 することができるのかという不安がありました。

しかし、学校には自分と同じ状況の友人達が沢山いたので、互いに励まし合えたことが支えとなり、学業と仕事の両立した生活に慣れていくことができました。

2年生では世の中はコロナ禍となり、例年おこなわれていた博愛祭やオーストラリアでの研修が中止となったことや、自宅学習などもあったことから、今後の実習や国家試験などに影響が出てしまうのではないかと、不安を感じていました。

3年生となり実習が始まりましたが、コロナ禍であるため、臨地での実習は限られていました。そのような状況でも、先生方が学内でも臨地に近い形での実習がおこなえるよう、学習環境を整えて下さいました。また、学生を受け入れて下さる施設もあり、患者様を受け持たせて頂く機会も得られたため、患者様に対し感謝の気持ちを持ちながら学生として関わり、多くの学びを得ることができました。看護を行う上で、対象を理解してくために、疾患などの知識もとても重要ですが、その他にも生活史や性格なども関連づけてアセスメントをおこなっていくことの必要性も改めて気づくことができました。また、実習のグループメンバーと日々相談し、助言を貰いながらおこなえたことで、様々な視点や考え方を知り、看護としての知識を深めることができました。

私は一度、全く異なる職業で働いてから途中で看護の道を志し、入学しました。5年間という学校生活はとても長く、決して楽な道ではありませんでした。諦めたくなることも沢山ありました。しかし、この5年間での仕事と学校といった環境により私自身の知識、技術面の向上はもちろん、精神面も強くなることができました。これらの経験を活かし、この先看護師として、患者様により良い看護を提供していけるよう日々精進していきたいと思えます。